



.NET 8.0

.NET 8.0 コンテナのリリースノート

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

.NET 8.0 リリースノートでは、.NET 8.0 プラットフォームを設定する機能と、本リリースにおける既知の問題を説明します。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	4
第1章 新機能	5
第2章 既知の問題	6

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。また、改善点があればお知らせください。

Jira からのフィードバック送信 (アカウントが必要)

1. [Jira](#) の Web サイトにログインします。
2. 上部のナビゲーションバーで **Create** をクリックします。
3. **Summary** フィールドにわかりやすいタイトルを入力します。
4. **Description** フィールドに、ドキュメントの改善に関するご意見を記入してください。ドキュメントの該当部分へのリンクも追加してください。
5. ダイアログの下部にある **Create** をクリックします。

第1章 新機能

.NET 8.0 コンテナのリリースノートは、.NET 8.0 RPM パッケージのリリースノートを拡張したものです。既知の問題、オペレーティングシステムのアーキテクチャー、プライバシー、およびサポートの詳細は、[.NET 8.0 RPM パッケージのリリースノート](#) を参照してください。

第2章 既知の問題

1. NodeJS は .NET 8.0 SDK イメージには含まれなくなりました。
Node.js に依存するアプリケーションを以前の .NET バージョンから .NET 8.0 イメージに移植する方法は、ナレッジベースのソリューション [NodeJS フロントエンドを使用した Web アプリケーションの移植による .NET 8.0 UBI イメージでの構築](#) を参照してください。
2. OpenShift Container Platform で使用されるランダムユーザーは、OpenShift Container Platform 3.11 の `/etc/passwd` ファイルに追加されなくなりました。その結果、`.NET Environment.UserName` プロパティは空の文字列を返します。
3. `DOTNET_CORE_VERSION` 環境変数および `DOTNET_FRAMEWORK` 環境変数がイメージから削除されました。代わりに、イメージには、`DOTNET_VERSION`、`ASPNET_VERSION`、および `DOTNET_SDK_VERSION` 環境変数の .NET Framework、ASP.NET Core Framework、および SDK バージョンの正確なバージョンがそれぞれ含まれるようになりました。
4. 追加のディレクトリーから証明書をロードするために使用される `DOTNET_SSL_DIRS` 環境変数は、イメージエントリーポイントによって処理されなくなりました。デフォルトの `s2i (source-to-image)` の `assemble` および `run` スクリプトは引き続き環境変数を処理します。あらゆる場合に証明書を信頼するには、代わりに `SSL_CERT_DIR` を使用します。
5. .NET 8.0 では、コンテナ内で実行するコマンドとその引数を単一の文字列として指定できなくなりました。引数を別の文字列として渡す必要があります。新しい構文は、以前の .NET バージョンでも機能します。
たとえば、`podman run registry.access.redhat.com/ubi8/dotnet-70 "echo hello"` の代わりに、`podman run registry.access.redhat.com/ubi8/dotnet-80 echo hello` を使用します。
6. `dnf` コマンドは使用できません。
イメージサイズを縮小するために、.NET 8.0 コンテナイメージは `ubi` ベースイメージの代わりに `ubi-minimal` ベースイメージを使用します。`ubi-minimal` イメージは、`dnf` コマンドの代わりに `microdnf` コマンドをパッケージマネージャーとして使用します。

Dockerfiles/Containerfiles で `dnf` コマンドを使用している場合は、代わりに `microdnf` コマンドを使用するように変更する必要があります。

`microdnf` コマンドの詳細は、`microdnf man` ページを参照してください。

RPM の既知の問題および回避策の一覧は、.NET 8.0 RPM パッケージの .NET 8.0 リリースノートの [既知の問題](#) を参照してください。